

ほたる草

発行
大阪市天王寺区東高津町12-10
大阪市ボランティア情報センター内
福祉と住環境を考える会「ふくてっく」

発行責任者 代表：杉浦史郎
TEL 06-6765-4041

「ふくてっく」は
福祉+テクノロジーの造語です



竹とんぼ

今月はいつもの講義と違って竹のおもちや作りに挑戦、竹とんぼとガリガリとんぼを作りました。出来たおもちやが、2つとも動くもので、その出来ばえがよくわかるもので、しばし童心に帰って楽しみました。その他、興味深い

3月定例学習会
平成11年3月6日(土)
中村 敏男 氏
長岡竹工房 主宰
* * *



童心に帰って楽しく 竹の白さを実感

竹の話を書きましたのでご紹介いたします。

竹は、最初の100日で高さ、肉の厚さも決まって、そのあとは変わらないで、4〜5年でその一生が終わる。1年目の竹は節の周りが白い。3年目くらいになると、白い物が取れてくる。4〜5年めものは黒くなる。3〜4年目のものを3年以上寝かせたものを竹細工に使う。竹は維管束が導管と篩管が入り混じっている。束になっ竹を割る時はナイフを使うが、切るのには専用の道具がよい。



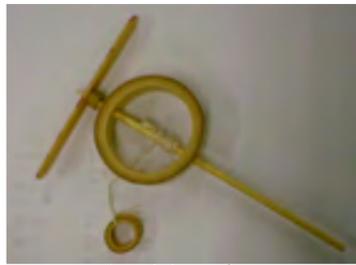
ガリガリとんぼ

く、そうめんの束を開くような感じで割る。切れないナタの方がよい。割るは末から、削るは元からという。竹は乾くと細工がしにくい。



輪ゴム鉄砲

充分水につけておいて、細工する直前に水から出す。カッターナイフよりも小刀がよい。



糸ひきとんぼ

水によくつけた竹を切り出しナイフで削る感触は、いかにも創っているという感じで気持ちいいですね。竹のなめらかな感触も、木工にはないものでした。

(記 木村 多加緒)



光野 菰

小くちゃん

国際高齢者年

1999年は「国際高齢者年」である。これは92年の国連総会で決定されたものである。「国際高齢者年」の公式テーマ「すべての世代のための社会」として「若く自立と参加、自己となつていく点」が強調されている。ここでは、高齢者自身のキャリアを生かし、高齢者のキャリアを生かし、人的資源としての潜在能力を引き出し、生かせるようにすることである。

を介護、庇護の対象として、いわば社会のお荷物のように考へるのではない。ここに示されている思想は、年齢、健康状態など、様々であるが、それぞれ多様なあり方の場を保障し、高齢者のキャリアを生かし、人的資源としての潜在能力を引き出し、生かせるようにすることである。



刃が折れた上、替刃がなく、手で切る糸のこはなかり(ふくてっくの道具でよどみなくテントをたたきつける中で、子ども達はちたはらと参加し始めた。用意した電動糸のこはなかりに、2年生の男の子を相手にのこぎりの方の指導をした。釘の打ち方の指導をした。のこぎりを使うと、どうしても体が斜めになる。それを見ていた木村さんと有馬さんが、木を固定する道具を作業台に取り付け、その子に「引くだけ!」と何度か言って教えたおかげで、少しはうまく使えるようになった。

おこえカーニバル

3月7日(日) 奈良県宇陀郡大宇陀町から約2時間半の道のりを越えて、今川学園ネットワーク施設主催の「おこえカーニバル」の木工教室のボランティアに参加した。冷たい雨がよどみなくテントをたたきつける中で、子ども達はちたはらと参加し始めた。用意した電動糸のこはなかりに、2年生の男の子を相手にのこぎりの方の指導をした。釘の打ち方の指導をした。のこぎりを使うと、どうしても体が斜めになる。それを見ていた木村さんと有馬さんが、木を固定する道具を作業台に取り付け、その子に「引くだけ!」と何度か言って教えたおかげで、少しはうまく使えるようになった。

一緒に作るのって
やっぱり楽しいですね

3月7日(日) 第2回浪速区こどもカーニバルに木工教室を開きました。あいにくの雨でしたが、室内での木工教室に次々とやって来る子どもたち。見本を見てはだんご3兄弟(大人気)、船、車と思いのままにやっています。トンボも作りたいというので一緒に見様見真似で作っている途中、新聞さんに細かいところを教えてもらい、二人でなるほどと納得(木の

こどもカーニバル

3月7日(日) 第2回浪速区こどもカーニバルに木工教室を開きました。あいにくの雨でしたが、室内での木工教室に次々とやって来る子どもたち。見本を見てはだんご3兄弟(大人気)、船、車と思いのままにやっています。トンボも作りたいというので一緒に見様見真似で作っている途中、新聞さんに細かいところを教えてもらい、二人でなるほどと納得(木の

枝に穴をあけて入れ込む所を、そのままポンドでくっつけたがうまくいかなかった。当たり前ですが)。一つずつそうなんだと実感するところがとても大切ですね。

(記 岩元 百合子)



冷たい雨の降る一日となつたが、主催者側によると子ども達総計300人。今年のは遊び場をホールにまとも



困っていました。しかし完成すると一人一人の個性が出て、部屋の配色や家具の配置などに違いが見られて白い作品が出来あがりました。

ミニチュアハウス教室

4月10日(土)「レインボー」のミニチュアハウス教室に指導スタッフとして、杉浦代表と平松が参加しました。今回の教材はドールハウスで、参加者は小学生4名とレインボーのメンバー3名の計7名でした。

作業内容はダンボールで作った部屋に壁紙や布の敷物を貼りつけ、バルサ材で作った机・イス・窓・棚などを取りつけ、小さな布の花や植木鉢や芝生などをポンドで接着し、色や配置を自分で考えて完成させます。

接着は木工ポンドを使つたので固定するまで時間がかり、子どもたちは大変



指導スタッフは次々と出される注文に対応しつつ、バルサで家具を作り大忙しでしたが、子どもたちの笑顔と感謝のこぼれに時のたつのも忘れ、充実した一日を過ごしました。(記 平松 明雄)

困っていました。しかし完成すると一人一人の個性が出て、部屋の配色や家具の配置などに違いが見られて白い作品が出来あがりました。

出来ることから始めよう 地球環境の実態を学習



4月定例学習会
平成二年4月3日(土)
池側 恵美子 氏
ネットワーク『地球村』

大阪市内でも最近ダイオキシンの高い数値が測定され、他人ごとではすまされない身近な問題になってきました。「地球環境を考える」というこの日の定例会も時宜を得たテーマのためか、椅子を補充するほどの大盛況で、関心の高さがうかがえました。

オゾン層の破壊は大きな問題といえます。オゾン層の破壊により有害紫外線が地上に届き、皮膚ガン、白内障、免疫低下は確実に増加しているが、日本では対策さえ考えられていないとか。外国では「ノーハット、ノーブレイ(帽子をかぶらずに遊んじやダメよ)」と警告しており、フロン放出に400万円の罰金が課せられていそうです。プールの上にも、運動場の上にもテントが張られ、遊んでいる人はUVクリームを塗つて、長袖に帽子、サンングラスと見ながら、テント屋が儲かるかな、帽子屋が儲かるかなと商人根性が頭をよぎるこの浅ましさを(儲けていないから考える?)。

は5年後に「ナノグラム以下という甘い基準で罰則も無いそうぞうです。」
また、一部の化学物質がホルモンを攪乱し、精子の力を弱くするなど生物に重大な障害を生じる環境ホルモンについては、プラスチック、哺乳の内側のコーティング、哺乳剤、殺菌剤、酸化防止剤、合成洗剤、歯みがき粉など日常のあらゆる部分に使われている材料が原因しているそうです。カップメンの容器のストレッチからも発見されたそうで、昼食のカップラーメンは止めましょうと特に若い男性に言いたい。(若い人より年寄りに多いかも、それならいい?)
最後に、環境にいいことを、出来ることから始めようと呼びかけられ、すぐに出来ることを列挙されました。その中で、おじいちゃんおばあちゃんと共に暮らし、ご飯を食、テレビを見、お風呂に入れば消費半減。仲良く楽しく一家団らんが消費の節減につながり、これも地球を救うささやかな行為と結ばれたのが印象的、核家族化、少子化の問題点もこんなところから解きほぐせるのではないかと

有償ボランティア シンポジウム

2月20日(土) 大阪市ボランティア情報センター主催で「有償活動ボランティアを考える」というシンポジウムが行われ、シンポジウムの一員として「ふくてつく」の杉浦代表が出席されました。他には3つのボランティアグループと、アドバイザーとして、大阪ボランティア協会事務局長の早瀬氏です。



早瀬氏よりなぜ有償かという話がありました。無償だどこまでやるか自分です。

決めなくてはならない頑張りすぎる↓疲れる↓休みたくなる↓ボランティアはあてにならないと言われる。といったことがあるそうです。また、従来は家事援助の依頼が多く、溜められるニーズなので自由な時間に行け(余暇の範囲)、無償が可能でした。最近では介護が増えた為、溜められないニーズで専従化が必要となり、無償では無理となつたそうです。

シニアボランティア講座

大阪市ボランティア情報センター主催のシニアボランティア講座が3月13日(土)開かれました。シニアを対象に「日曜大工でボランティア」と、「パソコンで拡大本の作成」の2講座が実施されました。



介と手すりの取り付けの実際を、実技も含めて担当しました。
電動工具をさわるのも初めての方が多く、この際さわっておこうと意欲的に取り組んでおられました。新開氏得意の壁裏センサーの実演をして、感心してもらったのでした。朝、クロスを糊付けしてこられたため糊の乾きが不十分で、センサーがうまく働かず、クローサ。

事例報告

冷や汗をかきながら

平野区Sさん 88歳 女性
A 風呂 浴槽が深すぎる。
①浴室内に二分割のすのこ
②浴槽内の底上げ(沈むすのこの様な物。高さ150mm) ③横手すり ④玄関入りつてすぐ左手の壁に縦手すり
B 骨粗しょう症等により、家内での歩行はかろうじて可能(伝い歩き)。公営住宅

A ニード
B 日常生活と家庭状況
C 解決方法
D 改善後の状況と考察
家で娘さん(80歳代?)と半同居。ヘルパー援助も受けている。
C 風呂 ①浴室内にすのこ作成。②浴槽内の底上げのためにはすのこでは浮き上がってしまうので、市販の入浴台を2台置く。③壁および浴槽に手すりを設置する。
④玄関 縦に手すり1本を取りつけ。
D 初期診断・後藤氏、製作



手すり取り付け



玄関改善前



すのこ、入浴台、手すり



浴室改善前

作取付け・新開。
①ガタツキ調整にペランダを借りてカンナ掛けに時間がかかった。②ステンレスの入浴台を2台並べて浴槽内にセットしようとしたが、結的には浴槽の中と外に一台づつ置いた方が使い勝手よかった。④クロスの下地がコンクリートとの判断に疑問を抱きながらの作業であったが、やはり石膏ボード(中空の壁)であった。中止してドリル穴をふさぐわかにいかず、背中に不安げな娘さんの視線を感じながら、下地のコンクリートにも穴を開け、カールと50mmの長い木ねじを使って岸

事務局会議報告

3・4月の事務局会議は、5月の総会に向けて、臨時の集会も含めて精力的に討議が重ねられました。その結、会運営の根幹に関わる大きな改革案が策定され、総会の決議にかけられる運びとなりました。

その第1は、会の意志決定機関としての事務局会議を廃止し、常に会員の総意に委ねる事とします。事務局会議はその名を活動懇談会と改め、採決権を有した理事制は廃止され全員参加型に移行します。事務局長は引き続き例会および懇談会の議事進行と、各部会の連絡調整に当たります。

定例会のお知らせ

日時	6月5日(土) 午後1時30分~5時
場所	大阪市社会福祉センター3階
内容	未定
日時	7月3日(土) 午後1時30分~5時
場所	大阪市社会福祉センター3階
内容	未定

編集後記



ほたる草の製作を始めて2年になりますが、突然の木村さんの転勤により、一人になってしまいました。どうにか出来たものの、他に製作できる人がいないのは、会として問題ではないでしょうか。パソコンが出来る人なら簡単です。どなたか手伝ってくれませんか。親切丁寧に御指導させて頂きます。(和泉)